

今月の食育講話

行事食について考えよう



今月のテーマは、「行事食について考えよう」です。日本には、1年を通して、様々な行事食がありますね。11月の行事食と言えば、「千歳飴」^{ちとせあめ}。七五三の写真を撮る時に持った経験はないでしょうか。

千歳飴は、江戸時代に浅草の浅草寺の飴売りが、紅白の棒状の飴を「千年飴」、「寿命糖」というネーミングで販売したのが始まりと言われています。昔は子供の生存率が高くなかったので、「無事に育てて長生きして欲しい。」という願いがこめられたそうです。このように、行事食には、様々な意味や願いが込められています。

実は、行事食という文化は、日本だけではなくありません。世界各国でも行事食はあります。世界の行事食は、どんなものや意味があるのでしょうか。今回は、世界の行事食について紹介します。日本との違いも考えてみましょう。

世界にも行事食があります！次の行事食はどこ国でしょうか？

①



11月の第4木曜日に、感謝祭(サンクス・ギビングデー)があります。この日は、家族や友達が集まり、ターキー(七面鳥)の丸焼きを食べるのが習慣。秋の収穫を祝う伝統行事です。近隣国カナダも、時期は異なりますが、同じように行われています。

②



この国のお正月は旧正月といい、旧暦の1月1日で、大体1月下旬～2月中旬になります。旧正月は、1年で一番大事な行事で、「水ギョーザ」を食べます。ギョーザは、昔のお金の形に似ているので縁起が良いと言われています。

③



この国は、独立記念日にあたる9月16日頃になると「チレス・エン・ノガータ」を食べます。「チレ」という、大きさはピーマンに似ている野菜に、豚ひき肉を詰めて油で揚げ、白いクルミソースをかけてザクロやパセリを飾るお祝い料理です。白・赤・緑の色で、この国の国旗を表現しています。

④



寒い地域のこの国は、毎年2～3月頃に、冬を送り春を迎えるお祭り(マースレニツァ)があります。このお祭りで欠かせない食べ物が、クレープのような「ブリヌィ」です。1枚焼いてバターを塗り、どんどん重ねます。この丸い形は、春の太陽を象徴しています。

⑤



この国の旧正月、毎年4月13日から15日に水かけ祭り(ソクラーン)が開催されます。この日は、宮廷料理の1つである「カオチャー」を食べる習慣があります。付け合わせのおかずは、味の濃い揚げ物や炒め物です。ジャスミンの花で香り付けしたジャスミン水をご飯にかけて食べます。

次回の「お弁当の日」は、**11月15日(金)!**

(変更になっています。縦割り弁当) 入港日は、13日(水)です。

トク⑤ ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺